

「 SAYONARA くまモン～第8回消化管CT技術研究会に参加して 」

小樽掖済会病院 平野雄士

(前日)

眩しいくらいの晴天の中、北海道にはなじみの薄いソラシドエアの機体が熊本空港に着陸した。まだ肌寒い北海道の民である私は南国のムードを漂わせる暖かい空気にくらやましさを感しながらボーディングブリッジを歩いた。そして、手荷物の受け取り所に入るところで一枚の看板を見かけた。「歓迎 第8回消化管CT技術研究会、熊本国際交流会館」。



そうだ、明日24日に行われるこの研究会のために私は熊本までやってきたのだ。そしてくまモンと記念写真を撮るために。

研究会の前日はテーブル、椅子出し、垂れ幕張りなどの会場の設営、音声やスライドチェック、使用機器の動作確認、配布資料の袋詰め等、世話人やサポートメンバー総出の作業がある。結構な作業量だ。夕方から開始したが、徐々にメンバーが集まり、各セッションのミーティングを随時行いながら、気が付くと午後9時を回っていた。



満席の会場

研究会は当番世話人である坂本さん（済生会熊本）の挨拶で始まり、今回から新たに世話人として加わった三原さん（東京メディカルC）松田さん（済生会熊本）松井さん（北福島医療センター）が挨拶をした。プログラムは福岡徳洲会病院の阿部太郎先生の「内視鏡医から見た“CTC”の使い方」の講演で始まった。表面型大腸

腫瘍の定義からCTCによる描出能の検討についてわかりやすく解説して頂いた。続いて一般演題では6題の優れた発表があった。CTCだけに拘ってディスカッションできるのはこの研究会ならではの部分である。多くの討論と新しい知見の報告があり大いに盛り上がった。その後、田中幸成先生（阿蘇立野病院）による「CTC始めました」の報告、各メーカーによる最新技術報告と続いた。この企画はランチョンなので、ここまでで午前の部が終了である。

午後は富松英人先生（岐阜大学）の「大腸CTの役割」の講演で始まった。検診CTCについて国内外の情報を交え、幅広い知見を紹介いただいた。その後、前回評判だったタブレット端末を用いた大腸解析を会場全体で行った。続いての大腸CTの疑問解決コーナーでは今回新たにアンサーパッドを用いて参加者とアンケートを取りながら楽しく質疑応答を行った。休憩をはさみ長澤宏文先生（国立がんセンター）から低線量化を目指した撮影条件の検討についての講演があり、最後の土井邦雄先生（群馬県立県民健康科学大学）の特別講演へと続いた。

土井先生の講演ではCAD開発の話、研究の話、感情能力の話をして頂いた。お話の中に研究者としての姿勢、指導するものの姿勢、感情能力の重要性を示され、これからの研究会の運営に対する意識付けをして頂きました。



特別講演（土井邦雄先生）

うーん面白い。この研究会に一日参加していると、かなりの知識が植えつけられる。ちょっと満腹気味かなと思うが、つつい欲張ってしまうので仕方ない。演者の皆さん、参加者の皆さん、世話人という立場でありながら、この研究会に参加できて非常にありがた

いと思いました。ありがとうございました。

さて、後片付けだ。机、テーブルをもとに戻し、プロジェクターを片付けて、、、。このあと、意見交換会も趣向があつて面白いのだが（略）

（翌日）

翌朝は富松先生と熊本城にいた。

3度目の熊本だが初めての観光だ。築城の名手加藤清正によって作られた熊本城を一巡りした後、ふもとのお土産売り場でようやくくまモンを見つけた。

これで目的を果たした。午後になり、多少の満足感と疲れを引きずり帰路についた。「さよならくまモン、また会おう」。



日本三名城の一つ熊本城（別名：銀杏城）



くまモンと私（筆者）

P. S. 次回の「第9回消化管CT技術研究会」は平成26年11月1日（土）杜の都仙台で行います。北海道からも比較的近いので、是非参加してください。よろしく！